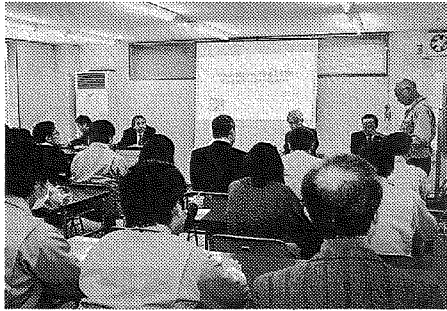


インフラ整備・維持 管理のあり方を議論

CCVと西宮市
都市政策研究会



土木学会関西支部FCC（フォーラム・シビル・コスモス）の構想で誕生したシビル・ベテランズ&ボラティアズ（CVV）、代表＝古田均関西大学教授）と兵庫県西宮市は20日、西宮市役所で都市政策研究会を開いた＝写真。11年から共催しており、今回で5回目。人口減少や経済規模の縮小など将来起こり得る課題のなかで、インフラの維持管理や効率的な整備を今後いかに進めていくか検討しようというコンセプト。

研究会では、最初にCVV事務局の黒山泰弘氏（元大阪市）が「自治体職員が直面する課題と社会状況の変化から考える」のテーマで講演。厳しい時代情勢のなかで、今後の建設プロジェクトがどうあるべきかを問題提起した。

続いて、CVVの古田代表が「インフラ維持管理の今後」と題して、ドローン（小型無人機）やAI（人工知能）などの技術進歩とともにインフラ維持管理がどう変わるかについて講演した。

最後に「自治体のインフラ維持管理について」の表題で、参加者らによる自由討議が行われた。

CVVは、定年退職した土木技術者が高い見識の下に、生活者の視点から社会基盤整備に貢献するシビルエンジニア・ベテランズとして活動できるのではないかと、強い思いから誕生した。自主的に結集した土木技術者OBによって広範なネットワークを構成してさまざまな活動を展開している。